

## （惠州農業学校との交流十周年）

本年度は中国・惠州農業学校と友好交流を始めて十周年にあたり、十一月にその記念訪問が予定され、計画・準備を進めてきました。しかし、尖閣諸島を巡り、日中関係が悪化する中、残念ながら記念訪問は中止となってしまいました。生徒たちは訪問に向けて、意欲的に研修に励み、また書道の授業等でもお土産の作品作りに熱心に取り組んでいただけに、非常に残念な結果となりました。

### これまでの経緯

- ・平成十四年度 中国広東省惠州農業学校と友好交流を提携
- ・平成十四、十六年度 本校生が修学旅行で学校訪問し、交流会を持つ
- ・平成十七年度以降 修学旅行、少人数での訪問を計画するが、インフルエンザ等の影響で実現できず
- ・平成二十二年 学校長が代表して訪問し、交流を深める
- ・平成二十四年度 交流を始めて記念すべき十周年にあたり、記念訪問・交流を計画するが中止



新高祭での阿波踊り



中国語講座風景

## 訪問に向けての取り組み

### 六月

面接・作文を通して訪問生徒十五名が選考される。訪問生徒として、自覚と誇りを持って学校生活を送ることを誓う。

### 七月

訪問生研修始まる。夏休みに十日間、一日二時間の研修に取り組み。

### ① 中国語講座

中国語講師の橋本先生に指導していただき、訪問に必要な基本的・基礎的な中国語、簡単な日常会話を学習する。

### ② 阿波踊りの練習

交流会で披露する阿波踊りを、保護者の方や地元の方に指導していただき、踊りの基本から、構成まで練習する。

### ③ 中国語の歌の練習

大事 MAN ブラザーズバンドのヒット曲、「それが大事」を中国語で練習する。この曲は中国でも有名だということ、橋本先生が選曲して下さったが、偶然にも新野高校野球部が春の選抜甲子園に出場した時の入場行進曲だったと知り、練習にも熱が入る。

### ④ スライドショーによる学校紹介の練習（中国語）

スライドショーに合わせ、新野高校の学校生活を中国語で説明する練習をする。

## 「届け！この思い！！惠州へ」

訪問できなかった悔しさを胸に、また、近い将来必ず訪問できることを願い、新高祭のステージで練習した踊りと歌を披露しました。十分な出来上がり状態ではありませんでしたが、訪問生徒たちの思いが惠州農業学校に届くことを信じています！

你好！来信收悉。在此，首先祝你及新野高等学校全体师生身体健康，学习进步。

你来信我们已通过校园广播站向全体师生作了播放，将你所希望来校参加交流活动，促进两校甚至两国友好关系的想法传递给了农校的广大师生们，他们都对你因为中日关系紧张，未能成行前来我校举行两校缔结友好学校十周年纪念活动同样深表遗憾。他们都非常赞同你对国家友好的认识，即“两国的友好，首先是两国人民之间的友好”。

的确，我们每一个人的力量都是微弱的，但是我们相信中日两国人民中有无数像你这样为中日友好相处而努力和平使者，点滴之水，汇成江河，相信有我们大家的共同努力，中日关系将很快恢复正常。你能很快成行到惠州农校来。

另外，听说你即将代表新野高等学校参加国际交流一定会很精彩！流论大赛。在此，我们预祝你能开得很棒！相信你这位和平使者“がんばって！”中国人民是友好的，惠州人民是包容的。农校师生是善良的，在此，希望你能借辩论赛之机，将我们热爱和平、渴望友好交往、互惠互利的民心传递给新野高等学校乃至你市的全体师生。

最后，祝愿农校与贵校的师生早日相聚同贺！

惠州农业学校校长 钟均宏  
二〇一二年十一月十日

訪問できなかった悔しい思いを一人生徒がメールで送りました。  
～惠州農業学校の校長先生からの返事～

### Kさんへの手紙

親愛なるKさんへ

こんにちは。お手紙拝見致しました。初めに、Kさんをはじめ、新野高校の皆様全員の健康並びに勉学が進まれることを願っています。

Kさんから頂いた手紙は、校内放送を通じて、全校生徒に既に伝えておりました。そして、Kさんが中国を訪れ、交流活動に参加したかった事や両国の友好関係の促進を図りたかった事を本校の教師及び生徒達に伝えておりました。

現在、日中関係は悪化しています。このことにより、両校の友好学校の締結10周年の記念行事に参加できなかった事を心より残念に思っております。私達も国家間の友好関係を築くためには、まず両国の国民の友好を図ることが大切だというKさんの考えに深く賛同しております。確かに、私達一人一人の力はとても微力ではありますが。しかし、日中両国の国民の中には、Kさんと同じように日中両国民がお互いに仲良く付き合えるようにと努力している人々が数多くいる事を信じています。

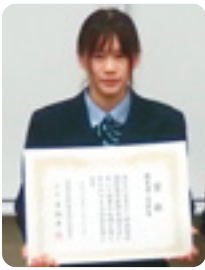
一滴の水滴が集まり河や海になるように、私達お互いが共に努力することにより、日中関係が近い将来必ず正常に回復し、そして新野高校の皆様が惠州農業学校を訪れることができる日が来ることを信じております。

ところで、Kさんが新野高校の代表として間もなく開催予定の国際弁論大会に参加すると言うことを聞いております。私達は、Kさんがその弁論大会において優勝できることを祈っています。貴方のように平和を愛する者なら必ずや優勝できると信じております。『がんばって！』(原稿は日本語です。)

中国の人々は友好的であり、惠州の人々は大らかであり、そして本校の教師並びに生徒達は善良な人達です。それゆえ、Kさんがその弁論大会において、私達も平和を熱望しており、友好的な交流を渴望しているという事、そしてお互いが助け合うことで共に発展することを信じているという事を新野高校の皆様並びに貴方の町の人々に伝えて頂きたいと思っております。

最後に、我校と貴校の教師並びに生徒達が一同に集まり、共にお祝いできる日が一日も早く来ることを願っています。

惠州農業学校校長 鐘 均宏  
2012年11月10日



## 〈日本語の部〉《優良賞》

### 再び中国へ「～私の送った一通のメール～」

2年 久 慈 眞 由

命运 就算 颠沛 流离  
 命运 就算 曲折 离奇  
 命运 就算 恐吓 着你 做人 没 趣味  
 别流泪 心酸 更 不应 舍弃  
 我 愿能 一生 永远 陪伴 你

今の歌は日本語にすると

「負けないこと 投げ出さないこと 逃げ出さないこと 信じぬくこと 駄目になりそうなき それが一番大事」

ということです。90年代に流行した、大事MANブラザーズの歌の一節です。交流校となって10周年をむかえる中国惠州農業学校で披露するはずでした。

はじめ、私は、海外に行くことができるという楽しみでいっぱいでした。旅行気分だったと思います。訪問のメンバーに決まってからは、中国語や阿波踊り、そして、先ほど歌った歌を練習しました。練習していくうちに、適当にすればいいというのではなく、新野高校の生徒たちの気持ちも一緒に運び、日本の文化をきちんと紹介しなければならないという使命感にかられてきました。

その頃、皮肉にも尖閣諸島の問題で日中間の関係が冷え込み始めていました。それでも、私は、さほど気にしていませんでした。9月15日に中国で大規模な反日デモがおこったというニュースを聞いたときでさえ、どこかテレビの中の出来事だったのです。それでも、連日連夜、反日デモの過激な映像を見ているうちに、「中国っていやだな。怖いな。」と思うようになってきました。

9月24日、訪問団が突然集められ、訪問が中止になったと伝えられました。その時の言葉が私をはっとさせました。

「君たちはいま、歴史の渦の中にいる。」

それまで私は、中国のニュースをどこか別の次元のことだと考えていました。よそごとだと思っていました。しかし歴史の渦の中にいるということは、私も歴史を作っていくメンバーなんだ。何かをできる一人なんだ。世界で起こっ

ている出来事すべてが私とつながっているんだと思いました。ならば、高校生の私に出来ることもあるはずですよ。

まず、中国を知ることからはじめました。もう一度歴史の教科書を読み、先生に質問したりもしました。見聞きするだけで終わっていた教科書やニュースも「なぜだろう」「知りたい」「何が出来んだろう」という気持ちで読みなおしました。いたずらに「中国は怖い」という考えは大変かたよった考えであることもわかりました。同時に、私の心の中に、「もしかしたら、同じように惠州の高校生たちも、よく知らないで『日本はいやだ』と思っているかも知れない。今だからこそ、正しく日本の文化や新野高校のことを伝えたい、伝えに行きたい」という思いがわき上がってきました。

私の出来る第一歩。惠州農業学校に私の思いを書いてメールをすること。私はすぐに実行しました。

「国同士の関係がどうあれ、私たちは訪問したかった。同じ高校生と交流したかったです。一人一人の思いは微力ですが、いつか大きな力となり交流できる日がくることを願っています。」このような内容のメールを送りました。

するとすぐ惠州農業学校の校長先生から返事が返ってきました。その内容は次のようなものでした。

「一滴の水滴が集まり河や海になるように、私達お互いが共に努力することにより、中日関係が近い将来必ず正常に回復し、そして新野高校の皆様が再び訪れる日がくることを信じています。」

「負けないこと 投げ出さないこと 逃げ出さないこと 信じぬくこと 駄目になりそうなき それが一番大事」

私の思いはささやかな一滴ですが、投げ出さず、負けないで相手を思い続けていればいつか他の人の多くの思いとつながって、両国をつなぐ大きな架け橋になる。私は信じています。必ず中国を訪問出来る日がくることを。

ご静聴ありがとうございました。